

小特集:朝井閑右衛門が描いた「ドン・キホーテ」 出品目録

会期=令和6(2024)年3月5日(火)~7月7日(日)

会場=本館2階ギャラリー 観覧料=無料

\*展示予定は変更となる場合があります。

no.	作者	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)
1	朝井閑右衛門	ドン・キホーテ	不詳	油彩・板	14.8×20.5
2	朝井閑右衛門	ドン・キホーテ	不詳	油彩・板	13.7×8.0
3	朝井閑右衛門	ドン・キホーテ	不詳	油彩・板	12.6×5.2
4	朝井閑右衛門	ドン・キホーテ	不詳	油彩・板に画布	21.5×17.8
5	朝井閑右衛門	ドン・キホーテE	不詳	油彩・板	23.9×12.3
6	朝井閑右衛門	ドン・キホーテ	不詳	油彩・板	8.7×10.8
7	朝井閑右衛門	ドン・キホーテ	不詳	油彩・板	22.8×9.6
8	朝井閑右衛門	ドン・キホーテ	1970年頃	油彩・板	12.6×5.4

【朝井閑右衛門 略年譜】

- 1901年(0歳) 大阪府に生まれる。本名:浅井實(みのる)
- 1919年(18歳) 後に陶芸家となる河野公平と上京し、叔父の家に寄寓する。  
一時本郷洋画研究所に学び、斎藤与里にも指示。
- 1926年(25歳) 第13回二科展で《庭園において》が入選。  
この頃、すでに朝井閑右衛門の雅号を称す。
- 1928年(27歳) 小田原市の本源寺不動尊の裏手に住む。  
この頃、作家の牧野信一など、小田原付近の若い芸術家や文化人と交流。
- 1932年(31歳) 光風会会員・平岡権八郎の知遇を受け、京橋区三十間堀にあった平岡の画室に居候をする。
- 1934年(33歳) 光風会展、帝国美術院展覧会に入選。
- 1936年(35歳) 現在の練馬区にあった、通称練馬のアトリエ長屋の一軒を借りて500号の大作《丘の上》を制作。本作は文部省美術展覧会監査展にて文部大臣賞を受賞。
- 1938年(37歳) 上海軍報道部依頼の上海戦記録画制作のため、上海へ渡る。  
これを機にたびたび中国を訪れる。
- 1945年(44歳) 上海で終戦を迎え、翌年帰国する。
- 1947年(46歳) 横須賀市田浦に二軒長屋を求め、境をぶち抜き、一軒分をアトリエに、もう一軒分を住居とし、以後20年ここに一人で住む。この年、光風会の仲間と新樹会を結成する。
- 1960年(59歳) 第14回新樹会に《詩人三好達治像》などの詩人を題材とした作品を発表。  
以降も、萩原朔太郎、室生犀星などの文化人を描く。
- 1966年(65歳) 鎌倉・由比ガ浜にアトリエを建て転居。
- 1983年(82歳) 鎌倉市の病院で逝去。